

平成 26 年度第 1 回浦安市児童センター運営懇談会会議録

- 会議資料 別紙参照
- 開催日時 平成 26 年 5 月 26 日 (木) 午後 6 時 30 分～8 時 00 分
- 開催場所 総合福祉センター 2 階 多目的室
- 出席者 9 名 委員名
 - (委員) 江黒委員 (浦安市小中学校校長会)
 - 中島委員 (民間有識者 NPO 法人 i-ネット)
 - 大塚委員・本田委員 (民生委員・児童委員協議会)
 - 橋本委員 (青少年相談員連絡協議会)
 - 奥村委員・松良委員 (子ども会育成連絡協議会)
 - 岡本委員 (こども部保育幼稚園課長)
 - 岡部委員 (こども部青少年課長)
 - (事務局) (こども部児童センター)
 - 東野児童センター：河野所長・岡崎・竹森・小野寺・小林・中里
 - 高洲児童センター：吉田所長・鈴木・山口・飯沼
- 開会
- 東野児童センター所長挨拶
- 自己紹介
- 会長選出
委員の互選により江黒委員 (小中学校校長会) が会長就任
- 会長挨拶 (江黒会長)
- 議 事
 1. 平成 25 年度事業報告について
 2. 平成 26 年度事業計画案について
 3. その他
 - ◎議事進行 (江黒会長)
 - 議事 1・2 について 児童センターごとに事業内容を報告
 - 議事 1・2 についての質疑応答・意見・感想
 - Q：東野・高洲児童センターどちらも利用者が減少傾向だが、その原因は何か分析しているのか。
 - A：東野では、きちんとした分析はできていない。
 - 高洲では、開館当初は東野を超える利用者があった。部屋が狭い。
 - 公民館のサークル活動が充実しているのが原因の一つではないかと思う。

議事 3. その他

(1) ゲーム機の盗難について（東野児童センター）

- ・今年の1月にDSのゲーム機の盗難があった。鍵のかからないロッカーに入れ30～40分遊戯室で遊んでいる間に無くなってしまった。本来、児童センターには貴重品を持って来ないようお知らせ等で伝えているが、持って来てしまった場合は、鍵付きロッカーに入れるよう伝えている。対策として事務所の前に大きな注意看板を設置。また、職員による館内の見回りを徹底するようにして、ロッカーの点検、自転車の鍵など確認し、館内放送を流して、子ども達に物を取られないように、また、物を大切にしよう注意している。
- ・ゲーム機は、今はどんな子どもでも簡単に手に入るもので、持って来るなどいうことは不可能だが、人のゲーム機を見てつまらないことを考えてしまう、そんな引き金になるような環境にはしたくない。ゲーム機だけでなく盗難は、とても嫌な雰囲気させるので、職員は目を光らせ、盗難のない環境づくりを考えている。
- ・高洲公民館では、沢山の子ども達がゲームをしている。ゲーム・カードで遊ぶことで、子ども達はコミュニティを形成している。一概にゲームをダメだと言い切れない時代になってきている。

(2) 中高生の居場所について（東野児童センター）

- ・今までの事業は幼児・小学生向けが中心となり、中学生以上を対象とした事業がほとんどできていないのが現状である。中高生の大部分は、バスケットや卓球をしたり、漫画を読みに来たり、テスト前の勉強をしたりすることもある。思春期になって両親や友人、学校の先生に言えないことも小さい頃から児童センターを利用していた子ども達は、児童センター職員に安心して話ができるようである。気になる子どもについては、慎重に対応するため、他の施設と連絡を取りながら見守りをしている。
- ・スマホのラインなどで学校や学年の違う子どもの交流があって微笑ましい子ども達もいるなかで、一握りの子ども達がラインにより公園でたむろして、好ましくない交友関係ができていく。青少年センターなどと連携を図りながら、健全に育てられるよう見守りをしている。
- ・悩みを抱えている中高生はほんの一握りかもしれないが、声に出せない中高生もいると思う。0歳から18歳までが利用できる施設として、中高生にも今後、目を向けていくことが必要であり、課題である。
- ・中学生に関して、職員がじっくり親身になって話を聞き、まず信頼関係を築かなければ前進しない。中高生は多感な年齢で、危険な道に入ってしまう可能性もあるので、周りの大人が食い止めていかなければいけない。職員がどこまでできるか力量をわきまえ、周りの市町村の施設から情報を収集して、

細かな分析をしていくことから始めたいと思っている。

(3) 盗難について（高洲児童センター）

- ・漫画の部屋では、カバンに漫画をいれて持って帰ってしまうことが多くあり、カバンの持ち込み禁止などの対応を取ってきた。巡回を強化し、職員を配置する。怪しい動きをしている子には、声をかけるなど対策を取っている。貴重品を受付に預けてから遊ぶよう伝えても、慣れてくるとそのままロッカーに入れて遊び、盗まれてしまうという悪循環が起こり、盗難はなかなか減らない。

(4) 来館する子ども達の状況について（高洲児童センター）

- ・気になる子が数人いて、児童センターを居場所として学校では見せない顔を児童センターでは見せる。そこから家庭の問題、母親との関係、食事が取れていないネグレクトの状況などが見えてくるが、どこまで介入して良いのか悩んでいる。

この春から近隣の小学校に訪問して、校長先生に気になる子どもがいることについて話をさせていただき、子ども家庭支援センターにも情報を入れている。児童センターとして、この先どうしたら良いのか、状況が見えているのに助けてあげられない。

質疑応答・意見・感想

気になる子どもについて

会長：ネグレクトの疑いがあるなどの情報を学校に送っていただいているということ。学校としてもありがたい。校長会議でもこのような情報があるという話をさせていただく。

委員：中高生について、職員も余裕のある人数で対応している訳ではないので、特定の子たちだけに関わっていくのは難しいと思うが、なんとかこれからも対応していただきたい。

会長：気になる子どもで、いちょう学級などの連携も図られている。今後、そういった対応も重要になってくると思う。

子どもの活躍の場を作ってくださいるのが非常にうれしい。子どもが自分達で企画をしたりすることは、子ども達にとってとても大事なことだし、子ども同士のコミュニケーションが新しく生まれたりする。学校では今、活躍の場を使えることになかなか時間が取れない部分もあるので、是非、地域の方々、施設の方で続けていただきたいと思う。